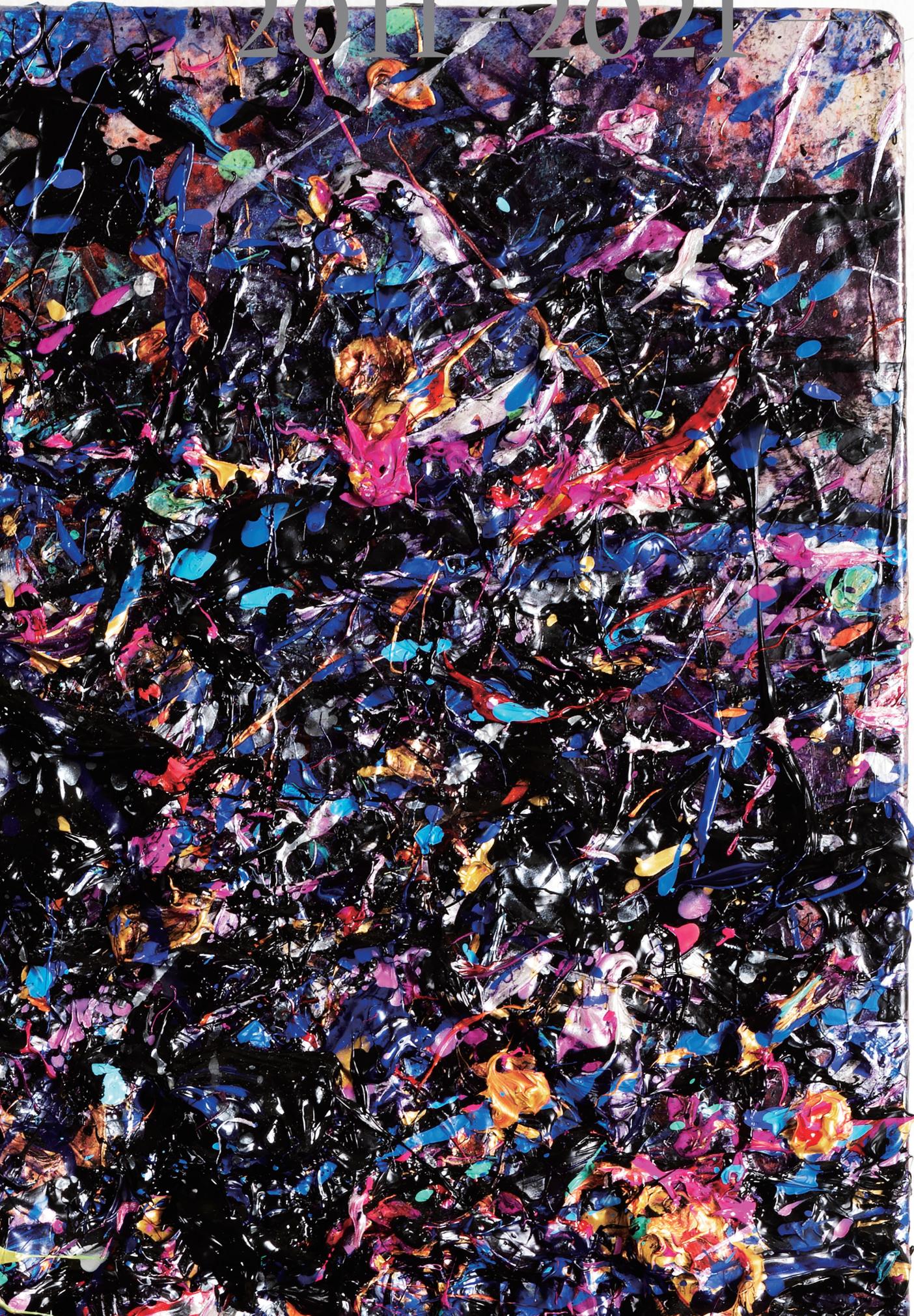


# Joy — PAINTINGS

高橋淑人 退職記念展

2011—2021



2021 / 10 / 25 [月] — 11 / 27 [土]

東京造形大学附属美術館

10時—16時30分(入館は16時まで)

入館無料

休館

日曜

・祝日

・10月29日(金)

ただし

11月23日(祝)は開館

主催

—東京造形大学附属美術館

協力

—高橋淑人退職記念展実行委員会



東京造形大学  
Tokyo Zokei University

# 高橋淑人退職記念展

東京造形大学附属美術館では2020年に退職を迎えた高橋淑人の展覧会を開催いたします。高橋淑人は1996年より東京造形大学助教授、2002年より教授として長年にわたり絵画専攻領域で教鞭をとり後進の育成に携わるとともに、自身の制作・研究に国内外で精力的に取り組んできました。和紙と版を使った制作を経て、現在の和紙を支持体として絵具を重ねていく技法に移行後も、一貫して「描く」ということを追求してきました。本展は多くのアーティストを生み出した優れた教育者であり、思考し続ける表現者でもある高橋の近作を中心とした活動の軌跡を紹介する展覧会です。

## 高橋淑人 退職記念展「JOY」に寄せて

人間の目は波長にして380～780ナノメートルまでの光を見ることができる。その波長に沿って色彩を並べると、青から黄、そして赤の世界へと変化していく。これまでの高橋の作品制作過程を眺めると、まさにこの青から赤への波長の振幅を辿るように色彩が変化してきている。

一連の作品を眺めていくと、いつの間にか覚醒作用が湧き起こり、過去の光の記憶が残像のように甦ってくる。人間の誕生は闇から光の世界へ投げ出され、臨終の際には強烈な光の中に昇天していくと言われている。作品には、人間の光の記憶を喚起させるマジナイのようなエナジーが渦巻いている。

絵の中の光は、100年前、1000年前、10000年後も変わらず色彩の地層となって蠢き続け、網膜を通過した後でニュートリノのように体内貫通をして、見えない波動を残していく。絵を見た後で目を閉じると、残像のような記憶の光がいつまでも輝き続けるのである。さらに高橋の作品では、可視化できない紫外線や赤外線までもが、存在と不在の境界域を自在に行き来しているようで、いつしか無重力の宇宙遊泳に誘い出されてしまう。

作品には太古からの光の原風景が、いつまでも消えることなく存在し続けている。色彩という光を集積し同時に拡散させることで、長年に渡るシリーズは、宇宙存在の光の波動をDNA絵画のように創出してしまったのである。

中里和人(写真家・東京造形大学教授)

### 関連イベント

シンポジウム[オンライン配信] 2021年11月6日[土] 14:00-16:30

登壇者 | 高橋淑人、ロジャー・マクドナルド(フリーキュレーター・研究者)

司会・進行 | 末永史尚(東京造形大学准教授)

事前申込不要・参加費無料

参加方法 | 上記の日時に、当館ホームページ

(<https://www.zokei.ac.jp/museum/about/>)にアクセスしてください。

### 東京造形大学附属美術館

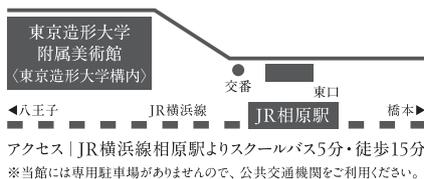
〒192-0992

東京都八王子市宇津貫町1556

〈東京造形大学構内〉

TEL: 042-637-8111

<https://www.zokei.ac.jp/museum/>



高橋淑人オフィシャルサイト <https://www.takahashi-yoshito.com/>

美術館公式SNS @tzuartmuseum @tzuartmuseum @TokyoZokeiUniversityArtMuseum

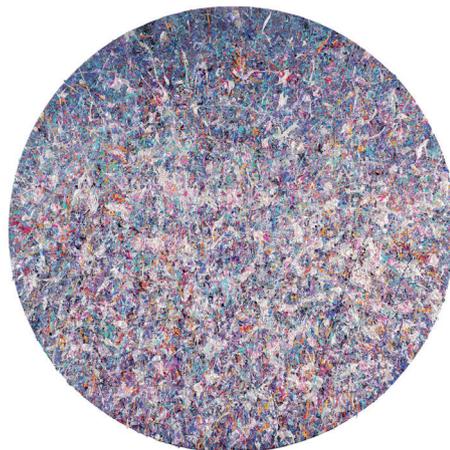
本展は感染症拡大の状況より内容変更や中止になる場合がございます。ご来場の際は当館ホームページをご確認ください。



《2011-2014-B4》2011-2014年 作家蔵



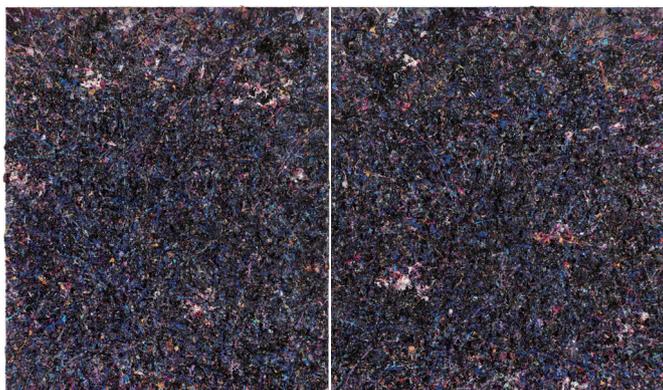
《2014-2015-B9》2014-2015年 作家蔵



《2018-B1》2018年 作家蔵



《2018-B3》2018年 作家蔵



表紙 | 《WORK 2020 B-1》(原寸大部分) 2020年 作家蔵

《WORK 2020 B-1》2020年 作家蔵